

# 全SSに自家発電機を

## 北海道胆振東部地震で新たな課題

北海道胆振東部地震は、北海道全域が停電する想定を超えた事態になり、SS業界にも災害時における燃料供給で、新たな課題が提示された。

地震発生が午前3時。私は6時に起床し、テレビ報道で地震発生を知ったが、その時点で何が起きていたか。NHKニュースは、患者の受け入れを中止した道内の救急病院名を次々にテロップで流していた。救急病院には自家発電設備があるが、非常用電源の発電機を駆動する石油の供給が間に合わず、受け入れ中止に踏み切ったケースもある。

東日本大震災以降、国は自家発電設備を備え、地下タンクを大型化した「中核SS」を展開し、熊本地震では災害時に一般の被災者などが利用できる「住民拠点SS」の整備を進めるなど、SSの災害対応能力を強化している。ただ中核SSは緊急車両への燃料供給が原則で、住民拠点SSも来店車両への供給が主体と思われる。病院や水道施設、老人ホームなど公共施設の自家発電向けの燃料供給、すなわち配送体制の構築がこれらの課題だと考えられる。緊急車両を受け入れる体制はできているが、災害時に災害拠点病院などに燃料を配送する体制構築が今後の課題だろう。

資源エネルギー庁は、病院など需要家側にも自家発電などを稼働させるための燃料を「自衛的備蓄」として確保するための補助事業を進めているが、備蓄燃料を使いながら燃料確保のため料を徴収しながらの運用は、近頃のSSに配達を依頼することになる。だがそのSSに自家発電設備があれば、地下タンクに在庫があってもローリーへのくみ上げができず配送できない。自家発電設備を持つ中核SSだったとしても、緊急車両への対応で精いっぱいではないか。今回の地震では、病院のほか

に水道ポンプ用の自家発電への供給も必要とされた。もしこの地震が厳冬期に起きていれば、老人ホームなど福祉施設などへの暖房用燃料供給なども必要とされたはずだ。災害時では、SSがもっとも適したエネルギー供給拠点となる。エネルギー基本計画では、石油は「最後の砦」に位置づけられている。災害対応型のSSが、今回の震災でその機能を十分発揮できたか検証する必要もあろう。

個人的には、すべてのSSがチ一つで切り替えができ、ローリーへのくみ上げができるようにSSを改造しておくのも一つの手立てではないか。SSに一定の在庫確保を義務づける施策も必要ではないか。そのチェック機能は各県の石油組合が担えばいい。そうすることで、SSの社会的地位は確実に向上するはずだ。この

場合の油種は、軽油と灯油ということになる。問題は消防法において、どのような条件のもとで緊急時に防爆対応されているか発電機を使用するようにするか法的な手続きも必要だ。

今回の停電では、民間の事業所にも大きな影響がおよんだ。漁業では製氷機が止まり、酪農では乳牛の搾乳機が動かず経営面での打撃につながった。工場では停電復旧後も節電要請で、自家発電を継続して使っている。民間施設への自家発電設置は、農林水産省などが補助金を出すなど対応を考へるべきだが、そうした場合に燃料を供給できる拠点が現在の災害対応型SSだけでは十分ではない。こうした体制が構築されれば、SSの社会的地位は格段に上がるはずだ。緊急車両向けだけでなく、ローリー配送による供給体制の構築が必要だ。地下タンクの在庫と、ローリーにくみ上げるための電源、この二つを装備することですべてのSSが災害時にある程度の使命を果たせる。



## SS経営アドバイザー 中澤省一郎公認会計士



災害時に対応できる機能を持つことが重要、と考えている。東日本震災の時には、SSがいろいろな所から発電機を調達して、計量機を回して地下タンクの石油を供給した。消防法の問題はあがるが、非常事態のなかで(防爆対策されていない)一般の発電機で対応した例もみられた。普通の発電機は操作も簡単なので、すべてのSSに国の補助金で普通の発電機を設置し、配電盤に簡単につなげ、スイッチ一つで切り替えができ、ローリーへのくみ上げができるようにSSを改造しておくのも一つの手立てではないか。SSに一定の在庫確保を義務づける施策も必要ではないか。そのチェック機能は各県の石油組合が担えばいい。そうすることで、SSの社会的地位は確実に向上するはずだ。この場合の油種は、軽油と灯油ということになる。問題は消防法において、どのような条件のもとで緊急時に防爆対応されているか発電機を使用するようにするか法的な手続きも必要だ。

## 近畿地区 コスト転嫁活発化 販売ペース落ち込むも

【大阪】近畿市場は府県、地域間の格差はあるものの、前週から今週にかけてSS店頭価格へのコスト転嫁が活発化している。13日

月はSS全般にガソリン販売ペースが落ちこんでいるだけに、マージン確保で乗り切りたい局面にある。このあと3連休商戦が2週連続とはいえず、天候に左右されそうな雰囲気でも盛り上がりは期待できそうにないこの

半の仕切価格引き上げとマージン不足が重なる形での、収益面の成遅れ気味で、市況は正果はあがらなかつた。今月は8月から月をまたいでの仕切価格続もあり、ガソリン減販

騰、実需減少という情勢下にあり、12日まで高騰で消費者の購買意欲が低下傾向にあるなかで、採算価格をどう維持していくかが焦点となりそうだ。

## 九州地区 地場PBに秋風 広域店出店、コスト上昇

B業者同士の競争が厳しくなった。直近では台風などの影響でタイト感さえ出ている。またローリーの運転手不足から安定供給に支障をきたすケースもある。同時に運賃や人件費などコスト(経費)も上昇しており、体質の弱体化も発生している。近年は九州外から実力のあるPB店の出店

米乾燥用 灯油価格 95〜98 秋田県大館地区 【大館市・秋田】大館地区では20日以降か